

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1790100612 | | |
| 法人名 | (株)ケア・トラスト | | |
| 事業所名 | ぐる～ぶほ～む笠市 | | |
| 所在地 | 石川県金沢市笠市町11-19 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年12月4日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年12月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 emu |
| 所在地 | 石川県金沢市窪7丁目364 伏見台ガーデンコート西尾ビル506 |
| 訪問調査日 | 令和5年11月29日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の事業所の目標は、引き続き選ばれる施設になるためにです。利用者様やそのご家族様、また職員や関係者の方々に”ぐる～ぶほ～む笠市で良かった”と思って頂ける施設になるために、マナーやルールを向上し、接遇力を高めていきたいということで目標をフロアに掲示し、各フロア会議で説明し、取り組んでおります。また、コロナ渦で外出は制限しておりますが、陰圧ブースを玄関に設置し面会も行えるように取り組みを行っております。自分で出来る事はなるべく続けて頂く事をとても大事にしています。又、役割を持ち、季節感のある生活をする事で、楽しみのある生活が継続できるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の経営理念が玄関に大きく掲示されており、ご利用者、ご家族、関係者の方々に周知されている。今年度は「引き続き選ばれる施設になる」を目標に掲げられており、新型コロナウイルス感染症も5類に入ったこともあり、施設に来て、ご利用者にお会いしてください。と積極的にご利用者とスタッフの支援関係を見て頂ける環境を構築されている。来ていただくためにはマナーやルールの徹底が必要であり、介護接遇にも力を入れている。見に来られて安心して頂けるようにスタッフ全員で取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 61 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 63 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 66 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 |
|--------------------|-----|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 昨年と同様の事業所独自の理念「選ばれる施設になるために」をフロア会議にて、共有し、各フロアに掲示していつでもみられるようにしている。また、フロア会議で管理者がパワーポイントを使って今年度の事業所の目標をプレゼンし、共有実践に繋がるように取り組んでいる。 | 法人の経営理念は玄関に大きく掲示され、周知されている。又、事業所の今年度の独自の理念は「選ばれる施設になるために」としており、スタッフのマナーやルールの厳守、介護接遇などに取り組まれている。各フロアにも掲示されており、常に意識して仕事ができるように周知されている。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナの影響は続いているが陰圧ブースを利用した面会や近所への散歩は実施している。また受診や避難訓練で地域住民の方々との繋がりは保つようになっている。また昼食に入居者様の食べたいものをお聞きしてテイクアウトを活用したり、ご家族からもご本人の好きな食べ物や馴染の物を差し入れて頂き、地域との交流を大切にしている。 | 陰圧ブースの設置より、短時間の面会が出来るようになった。その後、新型コロナウイルス感染症も5類に入り、ご近所への散歩などが再開されている。又、避難訓練では地域の方に車イスを押してもらい、小学校まで共に歩いて避難するなど、地域との交流も行われている。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナが5類に移行したことで、面会や近所への散歩は行っている。今年度は運営推進会議も実施しており、地域の住民の方々にも参加して頂き関係は良好で、地域密着型事業所としてコミュニケーションを取るようになっている。 | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナが5類に以降したことで運営推進会議は今年度から行っており、金沢市や民生委員、大手町地域包括支援センター、地域の方々に参加して頂き、意見をお伺いさせていただいております。 | 新型コロナウイルス感染症が5類に以降したことにより、運営推進会議が再開された。今年度は少人数で短時間で開催を始め、ご家族の代表、地域の方、地域包括支援センター、金沢市の方に参加して頂き、施設の状況を説明したり、ご意見を伺うなど交流が出来ている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加して頂いており、会議時やそれ以外でも疑問に思うことなど相談ごとがある場合に問い合わせをして、協力関係を築くように取り組んでおります。 | 運営推進会議に出席頂いており、マイナンバーによる健康保健証の統合の話等を質問したりしている。分からない事や疑問に思うことはその都度連絡し、確認を行っている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関しましては全職員に身体拘束をしないことを徹底するために玄関事務所には指針を掲示し、外部、内部の研修にも参加し、意識の向上に取り組んでおります。又身体拘束委員会があり、代表者も参加している。その他毎月開催している各フロア会議で確認し、話し合う機会を作り、共有しながら取り組んでいる。 | 身体拘束については、玄関事務所に指針を掲示し、身体拘束をしない事を徹底している。委員会もあり、その情報など共有したり、外部研修も取り入れ、フロア会議でスピーチロックなどがないか確認を行っている。又、言葉遣いなどはどうすべきだったのかも検討されている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎月のフロア会議で虐待がないか、虐待にあたるのではないかと話し合っています。話し合った内容をグループ全体のコンプライアンス委員会で提案し、外部の意見を取り入れています。またユーチューブ研修を行い、職員に報告書を提出してもらっています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ご家族が後見人になられた入居者様がおられ実際に接しながら学ぶ機会ができ、また社内研修で学ぶ機会を設けており、今後も必要に応じて、職員への理解が深められるように取り組んでいく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に正確に契約等について説明し、同意のサインを頂いております。また制度の変更や契約書の内容に変更があった場合は、その都度ご説明させていただき必要に応じて署名など頂いております。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族より面会の希望があるので、陰圧ブースを利用したり、近所への散歩もご家族と実施してもらっています。またケアプランの更新や不足品の購入、状態の変化等ご家族には定期的に電話やライン、ショートメールを使って連絡をさせて頂いております。その際に意見をお聞きしております。またご利用者様からもご要望があればご家族にお伝えして差し入れ等行ってもらっています。 | ご家族からは面会についての要望が多く、陰圧ブースが設置されてからは面会に来て頂いたり、ご近所への散歩など一緒にして頂いている。ケアプランの更新時や必要なものを連絡する際などに要望や意見をお聞きするようにされている。又、ご利用者から要望があれば、ご家族にお伝えし、ご持参いただいたりしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各階毎月代表者や管理者も参加する、フロアーミーティングを行い、又、個人面談も年2回実施し、意見や要望などないか聞いております。 | 個人面談では傷病で休まれたり、育児休暇を取られたり、一人の負担が大きい場合など要望が出る事がある。その為、今年度は外国人が1名増員されたが、慣れるまでの間は一人当たりの負担は解消されないが、現在は少しずつ解消されてきている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的に職員を対象とし面談を実施しており個別に話しをする機会をつくっています。また、仕事に対するやりがいを頂くため定期的に意見を聞く為に、話しやすい環境に取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内研修はユーチューブ研修を定期的に開催しており、外部研修にはコロナ対策がしっかりしているか確認したうえで、積極的に参加できるように調整しており、知識・技術の向上に繋がる機会をもうけております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県や市が主催する研修会への参加の機会を設け、他事業所の職員との交流する機会を設け、サービスの質の向上させるための取り組んでいる。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご本人、ご家族とお会いする機会を作り、困っていることや要望等お聞きしている。また利用されているサービス事業所の職員様や地域の馴染みのある方から情報を得るように取り組んでおります。入居されてからも、不安な事や要望などをお聞きして対応させて頂いております。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご利用開始の経緯をご家族様から傾聴し、ご家族様、入居者様それぞれから困りごとや要望などお聞きすることで、把握し支援するようにしている。また入居者様に何か変化があった場合はもちろん、普段から近況の様子を電話やライン、ショートメールを利用し、お伝えしております。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居される段階でまず不安な事や要望などをお聞きして対応させて頂いております。また必要に応じて併設の小規模多機能への利用をおすすめしたりして、本人やご家族の思いや状態に応じた支援が行われるように取り組んでおります。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員だけでなく、入居者様同士でも一緒に家事をしたり、出来ないことをお互いに協力し合って生活をともにされています。入居者様それぞれのできることを、やりたいこと、生活歴を大事にして、時には一緒に家事をしたり、役割を分担しながら暮らしを共にする時間を大切にしながら関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族には本人の好きなものを差し入れして頂いたり、施設近隣をご家族と一緒に散歩に出かけてもらったりしています。また必要な消耗品や季節毎の衣類の用意等、何でも職員が対応するのではなく、ご本人とご家族様の絆を大切にしながら、ご家族様にも協力していただいで入居者様の支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族を含め、県外の親戚や友人等にも陰圧ブースを活用し事前予約を頂いて面会できるように取り組んでいる。また、受診の介助や近隣の散歩等ご家族にお願いしたり、地域の飲食店のテイクアウトを利用したり、ご家族に馴染みの食べ物を差し入れてもらったりしている。 | 陰圧ブース設置により、県外の方も面会できるようになった。陰圧ブースでは狭い方はご利用者と一緒にご近所に散歩に行かれる提案などし、一緒に散歩される方もいる。又、受診のついでに外食されたり、お家にもいかれる方も増えてきた。閉ざされていた環境から予防しながら少しずつ解放されてきている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様と職員と一緒に家事を行ったりしながら入居者様同士の関わりが持てるように支援しています。又、入居者様同士のトラブルが起きないように座席を工夫したりそれぞれの能力に応じた役割を持っていただき、支えあえるように支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された入居者様のご家族様やご本人様とは必要に応じて相談や連絡など行える体制となっております。また病院のSWや新しい支援先に連絡をとったり、協力していくように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話の中やご家族からの情報などにより入居者様が支援してほしいとされていることを把握し、支援している。要望や意向を伝えられない方に対しては表情や生活歴、ご家族様からの情報から把握するようにしている。 | ご利用者には普段の会話やご家族からの情報の要望や意向をお聞きしている。帰りたいというご利用者にはご家族との電話の際に、電話をご利用者にかわって話をさせていただくなど、話すことでの安心感と満足感を味わって頂いている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 施設に閉じこもるのではなく、ご家族と近隣への散歩に出かけてもらったり、本人の希望のヘアスタイルや選べる方には好みの衣類を選んでもらっている。これまでの生活が継続できるようにご本人やご家族はもちろん、馴染みの場所や人からお話を聞いたりして楽しみを持ちながら過ごせるようにご本人の暮らしを把握するように努めている。 | 寒くなってくると、衣類が欲しいなどの要望や散歩に行きたいなど、これまでの暮らしの要望がある為、ご家族と散歩に行ってもらったり、服を持ってきて頂いたり、これまでどおりの生活が出来るよう支援している。又、ご家族や馴染みの方からも情報を頂くようにしている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 基本的にはご自分の生活スタイルで過ごしてもらっています。馴染みの物を洗濯物をたたんで頂いたり、食事前に日付の確認をしてもらったり、それぞれの有する力に応じて役割分担しながら生活されている。また、居室での一人の時間も大切にしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員一人で一人から二人の入居者様を担当しており、毎月のモニタリングやケアプランの更新時にアセスメントをおこなってもらい、その際に本人やご家族にも意向の確認を行いながら、また出来ない事を支援するだけでなく、本人のやりたいことや楽しみのある生活が送れるように介護計画を作成している。 | ご利用者には担当のスタッフがおり、モニタリングやアセスメントは担当者が行っている。それをチームで検討し、ケアプランの作成を行っている。その際にはご利用者やご家族の意向もお聞きし作成されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | iPadに個別の記録を入力し、文章だけでなく、写真も取り入れて、入居者様の普段の様子を把握し、職員間で共有しております。また改善すべき点も共有し話し合いの場で検討しております。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 受診の介助はご家族と連携共有しながら行ったり、同一施設内の併設事業所と協力し、また別フロアとの連携により受診介助や見守り介助その他レクリエーション等で連携して支援を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 職員だけでなく、ご家族とも近隣への散歩に同行してもらっている。また、避難訓練や運営推進会議では地域住民にも参加してもらっている。県外等の面会についても陰圧装置を整備し事前予約のもと面会の機会を作っております。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及びご家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設のかかりつけ医を利用されている方が多いが、ご本人やご家族様の希望により、個々のかかりつけ医を利用されている方もおられます。また専門的な受診等が必要になった場合は体調等の異変があった場合には速やかにご家族と主治医に連絡し、相談の上、専門医を受診するなど適切な医療を受けられるように支援しております。 | 往診していただけるかかりつけ医がおり、入居時にご案内すると共に、個々のかかりつけ医を希望される方もおり、ご家族に協力を得ながら、受診できるように支援している。専門的な受診が必要な場合や体調に異変があった場合も速やかにご家族に連絡し、相談の上、受診できるように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日中、看護師が勤務している時は、バイタル、顔色・表情、食欲、排泄状況や皮膚状態等の変化を報告・相談し、適切な医療連携ができるように、申し送りや個人ファイルにて情報共有を行い対応しております。夜間等の看護師不在時にもオンコール対応しており、急な変化にも対応できるように支援しております。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は速やかに入居者様の情報をお伝えし、書面にてサマリーを提供し適切に対応できるように努めております。また入院後も医師、看護師、相談員、ご家族様と連携を取り情報交換し、関係づくりに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・ご家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時やケアプラン、介護保険の更新時に話したり、また入居者様の状態に変化がみられた場合、ご家族様やかかりつけ医にすぐ報告し、そのうえで医師の診断により終末期となった場合は、ご家族様と今後の対応について相談させていただき、状態・方針を共有し、チームケアにより希望にそった形で支援を心がけております。 | 終末期のケアについては入居時に説明しており、ケアプランの更新や状態の変化に合わせてご家族にご説明している。終末期になった場合は、ご家族の意向をお聞きし、主治医から説明が必要な場合は説明して頂き、今後の対応について話し合い、常に状態を共有しながら、出来るだけご意向に沿った形でチームで支援されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時は管理者や看護師に連絡し、指示を仰ぐことしております。また、初期対応がしっかり行えるように、マニュアルも整備され、内外の研修にも参加し、フロア会議で毎月話し合いを行うことで日頃から対応できるように取り組んでおります。 | | |
| 35 | (13) | ○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている | 緊急時の連絡網や対応についてわかりやすく、簡潔に記載してあるものを各フロアに掲示してあります。また普段から緊急時に対応できるようにマニュアルを基にした研修会を実施しております。 | 緊急時は転倒やてんかん、便ショックなどがあり、個々に合わせた対応を行っている。各々にマニュアルがあり、常に緊急時に対応できるように研修を実施し対応できるように周知されている。 | |
| 36 | (14) | ○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている | かかりつけ医の先生とは往診時以外にも、入居者様の変化に伴い相談し、指示を仰いでいる。また協力医療機関や協力医療施設とは、病気・入院・重度化した入居者様の相談はさせてもらっている。 | かかりつけ医は何かあれば連絡に対応されている。医療機関としては3件ほど緊急対応して頂ける。又、協力施設としては特別養護老人ホームなどがあり、空き状況など情報を共有している。 | |
| 37 | (15) | ○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている | 夜間は各フロアに職員を配置しています。また緊急対応が必要になった場合は他階からの応援協力を得ることで、看護師、医師、管理者等と連絡できるようになっております。 | 夜間の緊急対応は最近発生しておらず、昼間に対応する事が多い。夜間は各フロアで協力体制をとっており、看護師、医師、管理者と連絡が取れるようになっている。 | |
| 38 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は年2回、6月に駅西消防署からDVDをお借りして、勉強会を行い、12月には夜間を想定した職員の動きについて確認した訓練と避難場所に指定されている明成小学校まで実際に歩いてかかる時間や道路状況等確認を予定しております。また、災害が発生した場合のBCPのマニュアルも作成中です。 | 新型コロナウイルス感染症により、地震、火災、水害などのケースを想定しての訓練が実施されていない。今年度は避難訓練を歩いて実施されたが、歩ける方と車イスの方が対象であった。現在BCPを作成されているが、実際にはどうするのかをケースに合わせて作成され、訓練出来る事を期待する。 | 現在BCPを作成しており、地震、火災、水害などを想定し、どのように避難すべきか、また、必要な備品は何かなど、明確にし、各フロアの優先順位なども考慮されたBCPを作成される事を期待する。 |
| 39 | (17) | ○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている | 避難訓練は年2回、実施しております。また、災害が発生した場合のマニュアルも作成してありますが、BCPについても作成中です。備蓄品については、高カロリーのゼリー等栄養補助食品も確保してあるがまだまだ不十分のところもあり、準備中である。今後さらに定期点検をしながら不足品の整備を行っていききたい。 | 備蓄品については、一般的なものは準備されているが、介護度に応じて必要なものを考慮し、賞味期限も含め管理される事を期待する。又、緊急連絡網を作成してあるが、外国人も増え、実際にその緊急連絡網が機能するのか、その方法で良いのか実際に訓練して整備する事を期待する。 | 緊急連絡網が正しく機能するのかを実際に行い、その方法がふさわしいか検証する事を期待する。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 40 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 社内の年間研修に組み込み、また外部の研修にも参加できるようにすることで対応できるように取り組んでいる。また、それぞれの居室への入室や入浴、排泄時の支援には特に、ご本人や周囲の方への配慮もしつつ声がけを行うように対応している。 | プライバシーに関しては、研修を実施し、配慮した支援を行えるように周知している。又、支援の際に配慮不足があれば、その都度、どのようにするのが良いか個別に伝えるようにしている。研修も社内オンラインで受講し、しっかり理解できたか確認テストで理解度を把握している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自宅に帰りたいと話される入居者様にはご家族と散歩に出かけてもらったり、受診等の外出の際に自宅寄ったりもさせて頂いております。また、意思表示の困難な方には表情や生活歴、ご家族からの情報をもとに個々のニーズに応じた支援を心掛けている。 | | |
| 42 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日中は基本、フロアにて過ごしていただいておりますが、傾眠が強かったり、お昼寝はご利用者様の意向をお聞きしながら、支援しております。また食事や入浴等特に希望がない場合は定時にサービスの提供を行っております。一人の時間を大切にしながら、それぞれの方の出来ること、やりたいことを支援するようにしております。 | | |
| 43 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節の変わり目にはご家族の協力を得ながら、衣替えを行い、また理美容に関しても毎月来られる美容師の方に、ご本人やご家族の希望を伝えて、こだわったおしゃれを楽しんで楽しんでもらえるように取り組んでいます。 | | |
| 44 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | テレビや新聞、チラシ等を見て入居者様が食べたいものを把握し、テイクアウトやご家族からの差し入れを行ってもらっています。またテーブル拭きや食器を拭いていただいたり、できる方には一緒に取り組んでいただいております。普段の食事メニューとは別に季節の食材や行事食の提供を行っております。 | テイクアウトでご利用者が喜ぶものはラーメンで、ラーメンのテイクアウトを楽しみにされている。お誕生日等はおやつの時間にご本人の好きなデザートをみんなで作ったりしてお祝いしている。ご利用者の出来る事は積極的にしていただけるよう支援している。 | |
| 45 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量が減ってきた方には補助食品や高カロリー食品を提供したり、嚥下状態によってはトロミを付けたり、ミキサー食を提供し安全においしく食べていただけるように支援しています。また脱水にならないように1日の水分摂取量を把握し、飲みすぎや少なすぎることがないように支援しています。 | | |
| 46 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを実施しております。介助が必要な方には声がけしながら介助をし、各入居者様に合わせた口腔ケアを行っており、自身で行える方に関しては声がけ見守りにて対応させていただいております。 | | |
| 47 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日中はなるべくトイレで排泄できるように、誘導や声がけを行っております。また、声がけはさりげなく自尊心に配慮しております。夜間は入居者様の状態に合わせて個別対応でポータブルトイレを使用して頂いたり、パットの大きさを変更して対応させていただいております。 | 日中は排泄のパターンでお声かけを行い、自立で排泄できるように支援をしている。又、夜間は安全や睡眠を優先し、ポータブルトイレを設置したり、パットやおむつを変更したり、個々に合わせて対応されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 入居者様ごとに毎日の排便確認を行っており、日々の水分摂取や歩行練習の声かけもしており、自力で便がでず、便秘症状がみられた場合は看護師や医師に相談し個々に応じた対応を行っております。 | | |
| 49 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 日にちは決めさせて頂いているが、時間はなるべく本人の希望にそった時間に入浴して頂けるようにしている。また拒否がある場合は、時間や日にちをずらして、出来るだけご本人が入浴を楽しめるように個々の希望を聞きながら行っている。 | 入浴は週2回入れるように決めているが、時間は体調や本人の意向により入浴できるように配慮している。拒否がある場合などは、時間や日をずらし、臨機応変に対応し、入浴を楽しんで頂けるように心掛けています。看取りの時期には清拭などで対応し清潔を保てるように支援している。 | |
| 50 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 基本的にはご本人様の過ごしやすいようにして頂いておりますが、昼夜逆転にならないように、日中に声かけし、起床を促したり、短時間のお昼寝をおすすめしたりして、夜間は安眠できるように支援している。また、一人の時間や空間となる居室での時間を大切に、プライバシーを尊重しながら支援している。 | | |
| 51 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬は完全に嚥下するまで確認しており、誤薬がないように職員で2重チェックを行っております。新しい薬が処方された場合は申し送りやフロア会議を通して職員間の情報共有を行い、副作用や症状の変化に注意しております。 | | |
| 52 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食べることを楽しみにされている方が多いので、テイクアウトや行事食の際に入居者様に希望を聞いて企画しております。家事等の役割分担もありますが、入居者様同士で不安になっている他の入居者様に声掛けして下さったり助け合って生活をされています。 | | |
| 53 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣への散歩には順次出かけるようにしている。また、ご家族にも近隣への散歩に連れ出してもらったりしている。施設近くにご自宅がある方には、自宅まで散歩したり、近所の方と歓談してもらったりしている。 | 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、近隣の散歩など随時行っている。春には元町保健所まで選挙に行ったり、ドライブで県庁の展望ロビーなどにもいかれ、少しずつ外出も行動範囲が広がってきている。 | |
| 54 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金をご本人で管理したり、使用することができる方に関しては、職員が代行して買い物をし、おつりや使用金額の確認をしていただいています。その他のご本人が管理するのが難しい方に関しては施設でお預かりしたり、ご家族様の管理となっております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族から事業所に電話がかかってきてご本人と歓談される方はおられます。今の入居者様で携帯等をお持ちの方はおられません。職員がご家族に電話した際に代わってお話ししてもらったりすることもあります。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間は毎日掃除しており、皆様が過ごしやすいように汚れ・臭い・明るさなどに注意し普段から清潔を保つように努めております。また、社内の環境委員会と協力して整備しております。その他、感染症対策の為、換気を心掛けており、気持ちよく過ごせるように取り組んでいます。 | 共有スペースは車イスが動きやすいように配慮したり、動きやすいように家具やソファの位置を考慮したり、定位置化して危険がないように工夫されている。温度、湿度などもスタッフが管理しており、感染症予防も合わせて快適に暮らせるように配慮されている。 | |
| 57 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間にソファやいすがあり好みの場所を選ばず過ごせるようにしているが、皆様座りなれた場所で過ごされることがほとんどで、独りになりたいときは居室に行かれています。 | | |
| 58 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 感染対策の為、寝具類は施設で用意させて頂いておりますが、それ以外の物は新たに購入するのではなく馴染みのあるものを持ってきて頂くようにしております。テレビや冷蔵庫など皆さんそれぞれなじみのあるものをお持ちいただき、また、家族の写真や大切にされているものを飾り、居心地の良い空間になるように支援しております。 | 居室で過ごしたい方も居り、各々が快適に過ごせるように配慮している。又、車椅子の方なども車イスからおりて居室で横になる時間なども体の負担などを考慮されて個別対応されている。居室はご利用者が心地よく過ごせるように配慮されている。 | |
| 59 | | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 車椅子であっても自走できる方には、フロア内を自走してもらっています。また、男女に関係なく、食器を拭いたり、洗濯物を畳んで頂いたりできる限り、声かけ、見守りでご自分で、できることは継続できるように支援しています。 | | |

